文是

WA 9
8
1

968329

WA9
8

才牛と呼ぶ亡父の遠忌を
追ふて人々の句を需ゆ手向忌
一草となれば弔にそのくと後出
つけよとはかゝれさんを種て
は申しむるに苔のなりしく
しこれらの作しを感じて
をゝ草を採て出、かゝる物なり

享保十五庚戌春浪花舊徳誌

今年正當二月十九日亡父才牛
二十七周忌也捻香撚華尚以不
為足故恭請貴句佳吟而為一集
供牌前矣且以刹那之間孝養勿
怠之心為心之戒耳

写し得よ日新も遅々の恩重經　才牛齋　三外

新千載集　むまはてハまたふひおん物里に
ちきりし友のふりきたる哉　源空上人

成佛や友哉あはむる苔ハ梅　三外母　尼　榮光

をもてものうち愛縫ん佛の座　三外妻　翠扇

[illegible]へ手向[illegible]樣四方ヲ咲ケ　三外妹　市櫻

[illegible]善や[illegible]樣樂て花[illegible]　外五郎十歳　德辨

獨行[illegible]千里乃雲長し　車壱

人あらは南枝も面へ手向毒　沾柳

花や耳五十展轉れ手向[illegible]　文壱

追悼

きけらしや年々雲[illegible]匂ハ詠ど　舊德

年力[illegible]彼岸樣や夜乃夏　松旬子

追善

花の名も佛乃法名の古匂哉　釋松巴

春雨ハずんどむしの涙哉　釋其雄

亡父[illegible]名[illegible]も防風れ匂ひ哉　釋夜月

歌僊

ほろ[illegible]へ[illegible]繪有彼岸[illegible]　沾洲

珠數の[illegible]鳩の地虫踏ぬ日　三外

春[illegible]乃醯ハ枝よりも彼[illegible]　青峩

歌詠過しても思ひれぬ都　壺月
関の月一番渡し　案おぼき　来川
小鷹席に敲く万屋　咫尺
ウ
黒蕎麦ハ祢んなう早き律義者　呉丈
寄進大工ハ降日にそ来ると　玉之
伊達お虎の妹の辻子に姉の町　水國
猿に猫寝る後家姉夕暮　蓮之
番椒いふても渡ぬ口をとり里　成屋

分別くらく戻里にハ木曽　安士
咒が慈悲ともあらた肌をぬぎ　貞佐
嬉しき時も念佛そのし　執筆
氷破ル者ハ蔵吉夜ハ月　咫尺
揚端箕乃是のる院参　東里
萬ゝんと天和年中三里紙　水國
太刀綿銀子ハ年寄姉ハ　沾洲
石
汐吹に味噌ハ浮くく有法社警護　壺月

灯しに竹もかはらぬ俗ヶ子　青我
発句ある方へハ涼しぬ唐扇子　三外
連さへ詠くハ羨しの餘　貞佐
屋上僧にかはて相油れ句ひなし　安士
信濃へ取て投こうの凍　呉丈
振袖て木の葉かくなる歌のあるゝ　玉之
夜寒は秦は哺めらさぬり　来川
常縫ぞてあきて果実はまひ　東里

夕月までも未い下に蹴る　安士
蟷螂の出向ふて居るも淋し　蓮之
恥と恥とも秋の旦那　貞佐

残

掃海の風をかさすす讀書懐　青我
三男素足次男草足袋　三外
賣て行夜哉大坂ゆ剃声　治洲
伏日材布の獺祭るらん　恕尺
証緒す極めて出そ洸光月堂　成屋

涅槃於門哉西面茶扶寺　壺月

追福

年ぐ苺松ハ春なりて赤い堂　山夕

茶ほの奴春もあまり幾年代記　一漢

きほゝなや土器供養ほしも草　青峩

生食よ才ある牛も外柳　貞佐

雲雨み絞の釈ぁいりの日星　泰室

世諸兮や魚籃が手年紫松田螺　風屋

箪笥や猪活も調へて供養哉　沾山

手向ぬハ鉄拐あてよ饑柳　水國

見やおめて遺教經の古をり哉　来川

菜は花や関の川筋手向水　超波

同

ぬる蝶の見ぬ世の影や供養佛　勢吉

あまたも紅梅乃花とハ見へん　仙水

海棠は寐ぬ也にほひもむかし　傘車

抱傳の智恵津を紋やいかの浮里　青條

追遠

語出沢香さへ法なのら梅裔　貞麿

鶯や追ひ者の津ら浮ひ　蓮雨

むかし皆苦き八耳し蕗の薹　沾郷

追慕

汝の父ゆかしめんて寄ち宵廻向　素丸

月のこゝろ几ゆゆ那見の紋所　長水

序六

遠弔

詩や瓜　我二月の手向草　車員

楼船ゆハ唄ひ初逢し彼岸鐘　雨磧

僧正の神無ゆ梅ちゃ塵里　吟夕

菓持菓や窯ゆ行の来る手向麿　嵐朝

追懷

六ッの見えき六ッの唱へや菓持春　[illegible]

老の二葉々後むかし一むかし　我兄

梅散て獅の脊也雲の那　蟻子
太刀筋を一見率都鄙梅ゟ得る　坂口
金札の大福帳や法の華　放洲

亡父の周忌ゟあぎりてをのけらるゝの
友倍養をとらるゝハ
光廣ゟの樣ゟの枝ゟ流れてそ見ると
あましゟも似て

あゝ和葉月雪メて友樣　百菴
うたふ声ゝ義ふ者も其人いのはまゝ　沾寫
生殘る人哉教へのまゝ実哉　沾魚

席七

蝶の羽をのすゝ志るひし音の如　十指
指出すや梅のずきへも都卒天　可圭

悼古

見しや世ゟ初鳴神も西の空　和風
其の詠ゟ梅香しや方百里　夜霜
十牛八世ゟ鏡其花の兄　闇礫

遠忌

比二月御ゟ堆朱持手向伽羅　鳳翠

故市川才牛八児童を戯
しらく世にあらはれ子三升後て
名を鳴らす今も当をの家
庚戌歳如月慈父廿七周乃
作善にいさめ所の俳句をとり
て作者は劉宋謝超宗が殷叔妃
詠を誄にいひて鳳毛の義あり
ますを称せられし類ひ委あま
おもひしを旧徳ほ門の序跋に

ひらん才牛世にありし時業を
同しうそれ更友江款をおのて
交をむ絶妻あるを後年月時日
戒名何寺号何とくハし九點鬼簿
に記して朔日香飯を備へるを
孫んとせしを云ふにそ亡父詩
佐還に怡元たかつて元禄十七年
より今まて三百七人七十年余
あり遠く成ぬるをおもひさへて

さとくまかりて旧知の誹へすりよ勢
長得ぬ所にそのくちあまれ癖より
よりて既旬なりぬこ結ぶ事乃
趣なり而其書の風とふさはしく
せられて筆をとりあへずしかひ
あつき巫とやれ結いつ所すと口の
内にて何はされ号の道三箇中すれ
所に向ひ所にこくちきさむと思へ
ま心比能たるに其に花の
花草も結ぶ月にちらはまてこそ

[illegible]れ結しやれと句情を
吟しく[illegible]音律を
用きられ[illegible]常乗海乃
風の[illegible]ちく明[illegible]居勝を
笑せる詞花言葉結ちまくも
かのこれこそ[illegible]
贈[illegible]

[illegible]

元禄十七甲申年
門譽入室覺榮
二月十九日
俗名 古市川團十郎
増上寺中
常照院
其角
塗部乃父ハ百ゆしや雛志夢

元禄十七甲申年

正心院宗慶日淨　俗名　古坂東又太郎

二月廿八日

下谷宗延寺中

正理院

咫尺

はつ下次坂東右郎又雪解

寶永元甲申年
宗順院日耀
八月十九日
淺草新寺町
淨林寺

俗名
荻野澤之丞

青峩

関[illegible]帽子此人目沢拮梗

宝永二乙酉年

妙荘院普観日門　俗名　小嶋平七

七月十三日

三田　藥王寺

敷盛乃法壽の役ゟて世哉

去て二十余年　沉詳

折の事て庭のこりて魂灯篭

宝永二乙酉年
岸譽助給
十二月九日
伊皿子
長安寺
俗名
古西國兵五郎
貞佐

掃ヶや煤古き烏帽子我娘ノ天窓

宝永三丙戌年

長阿宗林

四月廿四日　浅草日輪寺中

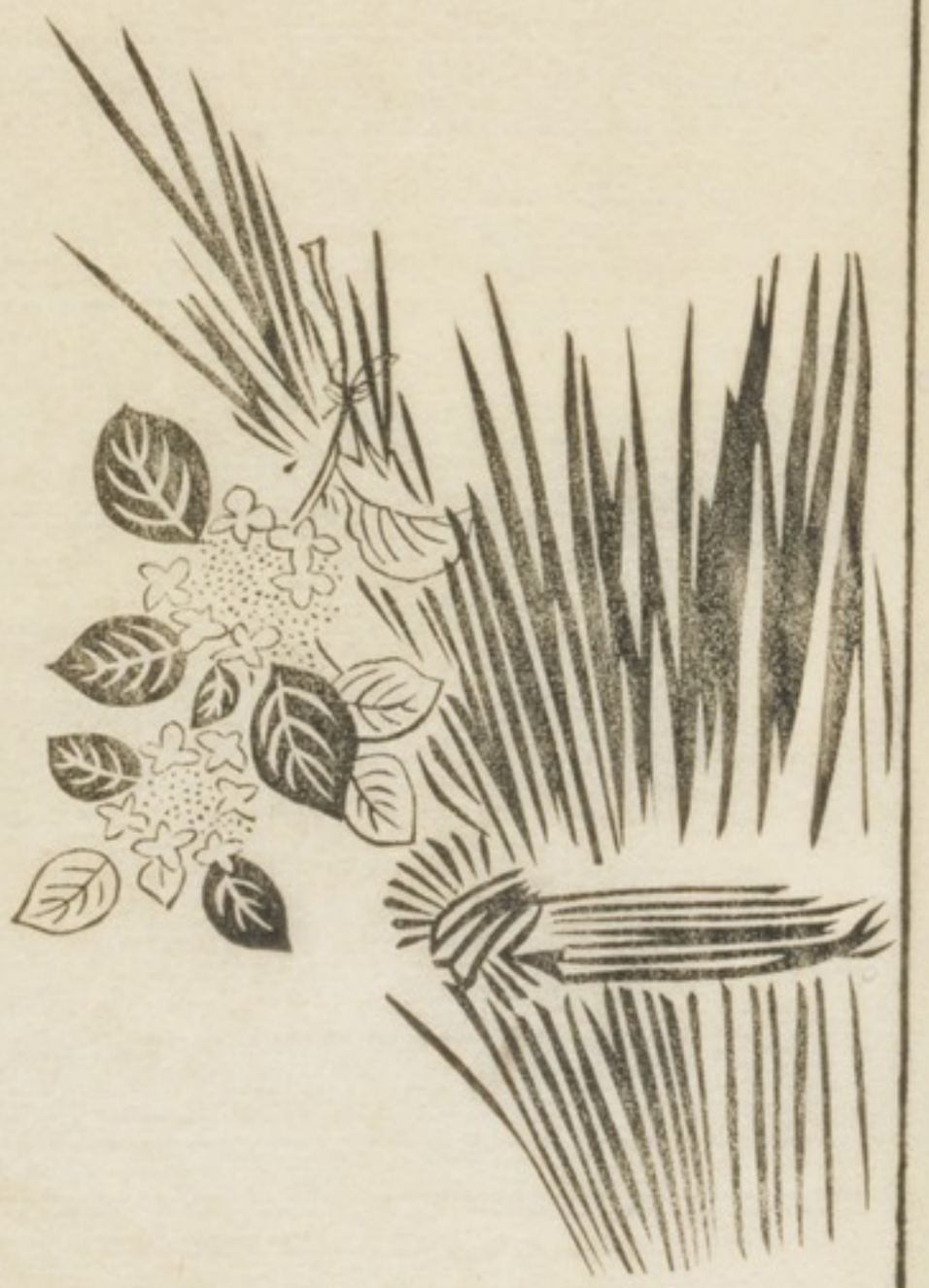
俗名　生嶋大吉

寶珠院

俱胝の竪指如領悟しきる
童子此人乃風流と一奇譚也
浄宗法佛果ハ其ち諸人公任の
九不算百如もなかせましそや

文東

かくなへて四到之此茶や雅事



宝永四丁亥年

淨譽念求

正月廿七日

俗名 出来嶋小晒

淺草誓願寺中

快樂院

桃舟

雪は根はゆるむやいはいはしら葛

宝永五戊子年

心鏡院杏實日映

二月三日

本所法恩寺中

寶泉院

俗名 古中村七三郎

沾德

弓流寸秘も如変身小彼岸に

宝永五戊子年

智山常光　俗名　出来嶋半弥

四月廿二日

浅草八軒寺町

東陽寺

富百

鳴持巣乃清水巣也　蓬蒿

宝永六己丑年

通照院道入日念

正月廿日

谷中

長運寺

俗名

上村花右衛門

春耕

夏かりゝ栢木りをそ佐九良狗

宝永七庚寅年

花容院清林日香

二月六日

三田藥王寺

俗名 三尾木雞波

釋 專吟

清まらるや小角豆は粒乃素量不

あの吟ハ百ケ日追福の句也

寶永七庚寅年

廣受院宗林日記

五月廿二日

俗名 葉山岡右衛門

淺草新鳥越

圓常寺

倫里

獨やきの時鳥鳴

[illegible]

室永七庚寅年
儀山全勇
六月廿日

愛宕後通
忠岸院

俗名
横山六郎治

故一

蟬乃外ハ

正德元辛卯年

願譽順誓信入

十月十九日

俗名 小勘太郎治

増上寺中

昌泉院

泰室

壷形乃孫阿法よひや桐火桶

正德元辛卯年
明宗光還
十一月十五日
增上寺中
淨運院

俗名
小野川千壽

里童

籠ゝみて仕様をぬ時も冬穂

正德二壬辰年
智相明光
六月朔日
増上寺中
浄運院
俗名
久松多三太
嶺二
声是はん生まてのゝ向の菩薩

正徳二壬辰年
深性理還
十一月廿四日
増上寺中
観智院

俗名
市川若松

女
市櫻

山茶花や[illegible]見普賢

正德三癸巳年

林翁淨清

正月十二日

今戸慶養寺

俗名村山四郎治

土菴

秀水句小冊前村乃梅白し

正德三癸巳年

圓寶院玉山日登

閏五月十五日

下谷

宗延寺

俗名

古嵐土世三郎

安士

清よかゝぬハ女孤面里春風

正德三癸巳年

本住院道觀日法　俗名　中村傳九郎

十月廿五日　牛嶋妙玄寺

一　鶴比祭ハ家のもの

一　月行奇也

一　拍子ゟ名誉

沾洲

三　[illegible]乃光里[illegible]町會式

正德五乙未年

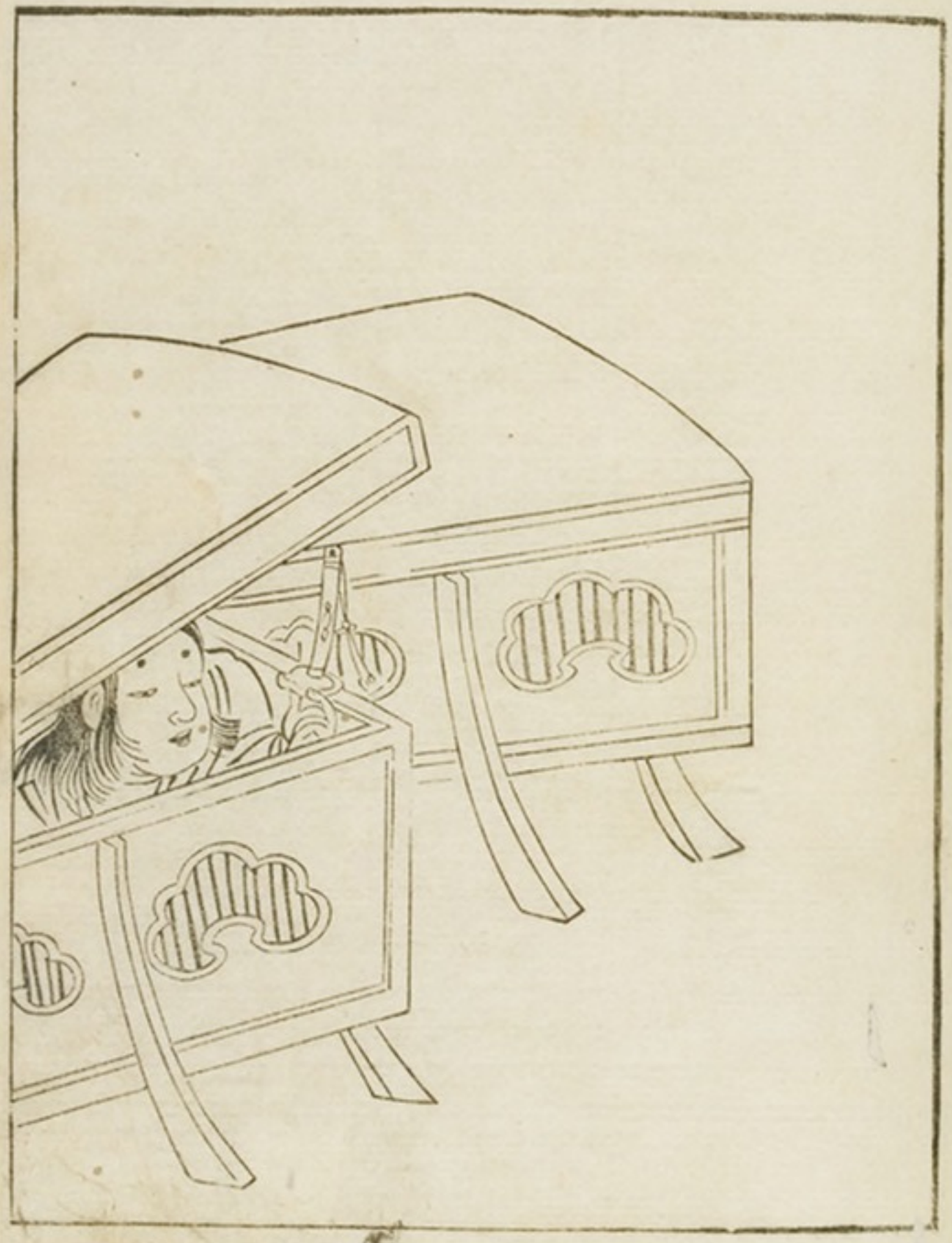
正等院宗覺日成　俗名　花井源左衛門

五月十八日

三田藥王寺

杉曉

きりまなびて陳波樋の木法為也



正徳五乙未年

圓心院宗壽日量　俗名　中村峯之助

七月　四日　谷中三崎妙円寺中　一乗院

園之悲門之艶の秀出るも各市川の
流れ清し其中間に此若衆志はらく
世に鳴て舞臺の外に出屋をよく
ものせし我吾又志繼る事有て三年
慈父追福乃はねて此あきをのぶるハ
ひとへに懐のみそなきまて有哉
手向ゆるしし

半鱗

鷲香持大塔乃宗　環草

正徳五乙未年

芝風柳岸

七月十九日

深川本誓寺中

齡閑院

俗名

出来嶋吉弥

琴助

一葉ふ散ばらく夜や琵琶の上

正徳五乙未年

實相院日了

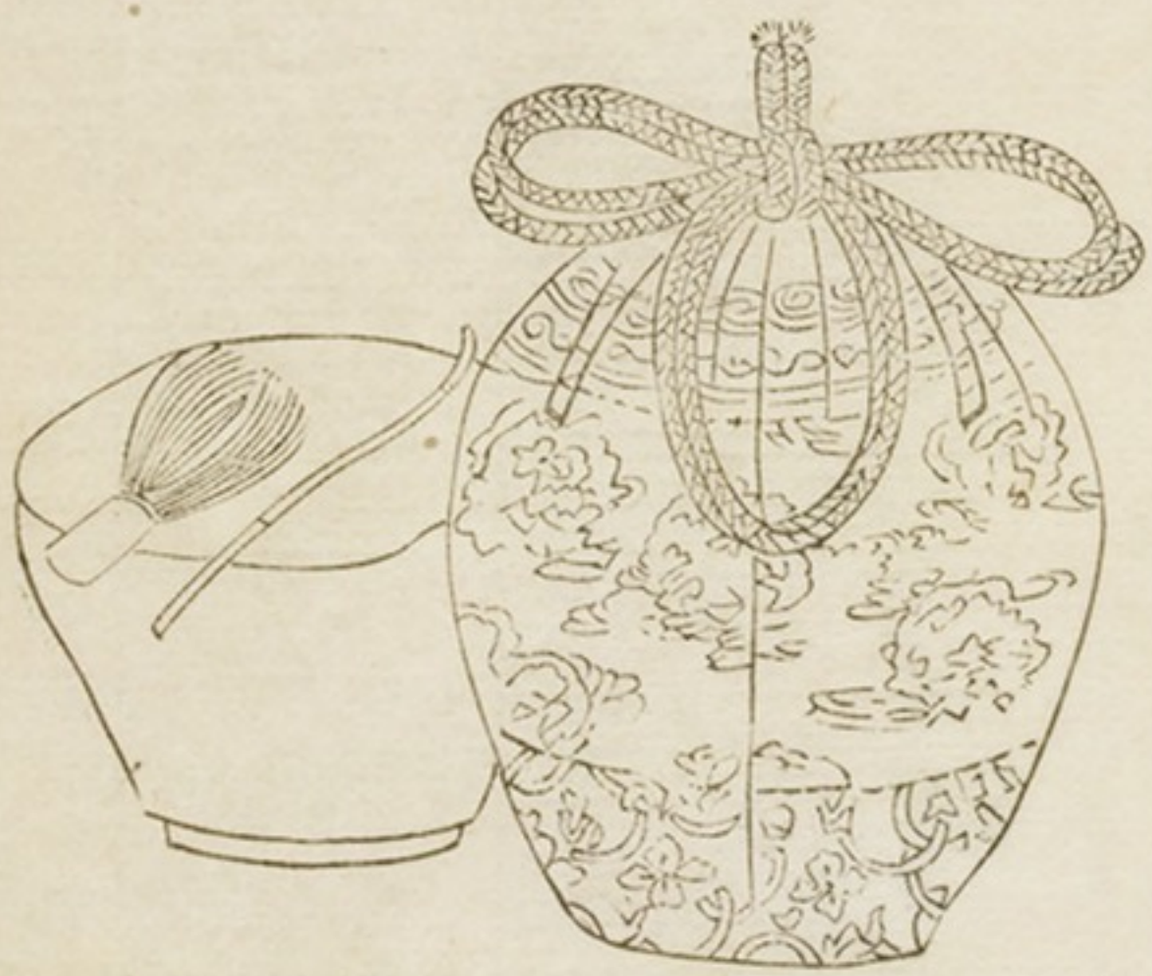
十一月廿三日

谷中　長運寺

俗名　左近伊兵衛

藤橋

口切や紗金結ひ乃衣裳津記



正徳五乙未年
映譽飾運
十二月十九日
増上寺中
観智院

俗名
瀧川吉平次

菊丈

雪霧やもみちぬ松乃使者男

正徳六丙申年

俗名

真光院了智日信　古中嶋勘左衛門

四月廿一日

坂本入屋

感應寺

一漁

かしする牡丹ものをな二蓋笠

正德六丙申年

丟淨院義進日妙　俗名　中村源之助

四月廿四日

雜司谷　本能寺

文声

樂屋てハ変成男子杜若

正徳六丙申年　俗名

玄休院日温　出来嶋庄五郎

五月十九日

法恩寺中　正運院

沾徳翁ハ合歓堂古少長ハ

杏実ニ庄五郎もともに一蓮の

法恩寺なり終を　八町

合歓杏子爲称やすらよ墓並ひ

正徳六丙申年
苔岸蓮暉
六月十三日
谷中　盛泰寺

俗名
濱崎磯五郎

雲居寺法上人膽西説經の
百両を望まれ堂もしかり
其後と

袋草紙

玉之

夕立や守屋ハ法乃敵役

享保元丙申年

誓譽本哲霊殘　俗名　藤田長左衛門

六月十四日

深川霊巌寺中深照院

世長左衛門ハ名ヲ変ヘし

鸚鵡乃吉無常ヲ知ヤ　車声

風蘭ヲ藝ハ少ニ物音呼

享保元丙申年
學陽善知
九月五日
谷中妙円寺中
一乗院

俗名
吾妻東藏

岸鷺

吾妻とこそ
彩や暁稲聟

享保元丙申年

真行院浄立日信　俗名　西村弥平次

十二月十七日

法恩寺中　千林房

又河豚良菜口ゟ　苦笑ひ

雨橘

享保二丁酉年

性譽真了

五月二日

深川 正源寺

俗名 古市川團四郎

巴中

文覺哉刈得堂り蟬乃澁

享保二丁酉年
觀譽量喜
十月十一日
靈巖寺中
正覺院

俗名
鈴木平吉

里鄉

鬢鬘かはしもはてゝちる紅葉

享保三戊戌年

浄心院善教日順

六月五日

谷中妙福寺

俗名 村山平右衛門

蒼鷄

[illegible]

享保三戊戌年

實教院永遠日感

十一月廿一日

俗名

古鎌倉長九郎

谷中

長運寺

貝錦

明六乃か称房申し霜乃花

享保三戊戌年

梅譽證山

十二月八日

淺草寺町光感寺中

栄林院

十町

俗名

古山下軽藻

年と日や山乃下り十二月

享保四己亥年

馨譽良薫

正月廿八日

俗名 坂田清门

鳥越壽松院中

隆崇院

富川

氷堂如[illegible]我鴛鴦俄解

享保四己亥年

心譽助給

六月六日

橋場 法源寺

俗名 竹田源助

輕業ゟ不あ里猿ニへ里と

いふ事源助とりなるへし

宗之

法有ニ而ハ鶴よ里ハ海志ニ結ぶ輪ぬ世紀

享保四巳亥年
華屋順栄
八月八日
浅草 天嶽院

俗名
山村惣左衛門

兎江

乗月
手もはなき獨ぢくらや釣瓶縄

享保四己亥年

真如院傳齊日教　俗名　早川傳五郎

十一月廿日　本所押上村　春慶寺

門誉入室覚栄居士き法ろ記

中九日我稱ともらまし永世

人亦年を經月う淨望て

忌日することや夢侍ありし我

雪朽も苦しい淨ける日蛇の目傘　成屋

ك
№ 6